



令和4年度企画展

生誕130年 詩人・ 尾崎喜八

と杉並

杉並の自然を愛し、
文学で世界とつながった

令和4年12月17日(土) - 令和5年2月19日(日)

 **杉並区立郷土博物館**
Suginami Historical Museum

〒168-0061 東京都杉並区大宮1-20-8
TEL:03-3317-0841
<https://www.city.suginami.tokyo.jp/histmus/>



令和4年度企画展 生誕130年 詩人・尾崎喜八と杉並

詩人・尾崎喜八(1892-1974)は、白樺派から出発し、杉並で「自然と文学」の金字塔となる作品を多く遺しました。大正12年(1923)の関東大震災後に作家・水野葉舟の親友であった農業思想家・江渡狄嶺の導きで現在の高井戸東に新居を構えた尾崎は、翌春、水野の娘・實子と結婚してそこに暮らしました。のち、昭和19年(1944)まで、現在の南荻窪、善福寺と戦前の杉並に住み、野鳥研究家・中西悟堂とは自然・野鳥を、詩人・片山敏彦とは海外の新しい文学を探求して、『山の絵本』などの博物誌を書きました。また、ノーベル賞作家ロマン・ロランと交友してその文化使節を杉並に迎えるなど、世界文学とのつながりを持ちました。

本展では、寄贈を受けた資料の中から、尾崎がガラス乾板・写真に残した100年近く前の杉並の農村風景や生態系の様子とともに、深い交流のあった高村光太郎ら文学者とのかかわりなどを紹介します。



「ロマン・ロラン」昭和6年ノーベル賞作家ロマン・ロランと文通した。親しい手紙とサイン入りの写真が届いた。



「高村光太郎アトリエ前にて」昭和8年 撮影：尾崎喜八
高村と尾崎一家。



『山の絵本』平成5年 岩波書店
昭和10年刊行の随筆集。「自然と文学」の金字塔。没後の平成版表紙はH・ヘッセから贈られた水彩画。

『詩集 花咲ける孤獨』昭和30年 三笠書房

戦後の口語自由詩の可能性を切り開いた、尾崎63歳の時の最高傑作。



『詩集 空と樹木』大正11年 玄文社詩歌部
尾崎30歳の初詩集。献呈したロランからも熱い讃辞が贈られた。



「大根干す」(荻窪)昭和10年 撮影：尾崎喜八
杉並の農地や自然の風景を尾崎は「自然生態写真家」として撮影した。

講演会 石黒 敦彦氏 (尾崎喜八孫/東京工芸大学講師)

①「詩人・尾崎喜八」 令和4年12月18日◎ 午後2時～4時

②「口語自由詩と昭和の杉並・武蔵野」

令和5年 1月15日◎ 午後2時～4時

定員：各回40名(抽選)

申込：東京共同電子申請・届出サービスより申込 または 往復はがきに参加希望日(1通につき1回分、1名まで)・氏名(ふりがな)・年齢・住所・電話番号を記入。

締切：① 令和4年 12月8日◎ 必着

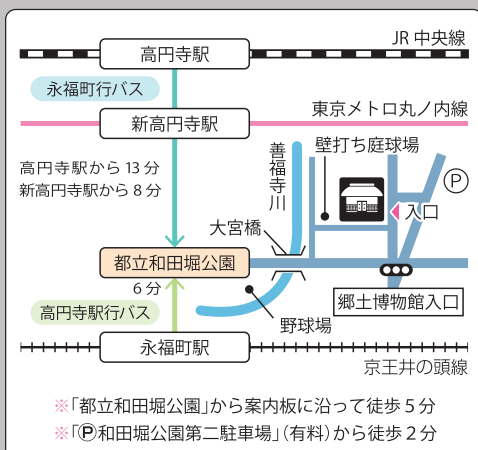


② 令和5年 1月5日◎ 必着



展示解説 令和5年1月22日◎ / 2月12日◎
各回午後2時～2時30分

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 毎週月曜日・毎月第3木曜日(祝日と重なった場合は開館し、翌平日が休館)、12月28日～1月4日
観覧料 100円(20名以上の団体は1人80円)
※中学生以下、障害者手帳等を提示する方およびその付き添いの方は無料
交通案内
・京王井の頭線「永福町」駅北口から徒歩15分、または「高円寺駅」行きバスで「都立和田堀公園」下車徒歩5分
・JR中央線「高円寺」駅南口・東京メトロ丸ノ内線「新高円寺」駅から「永福町」行きバスで「都立和田堀公園」下車徒歩5分



杉並区立郷土博物館
Suginami Historical Museum

